

# 18 『郷土の歴史や文化を巡る(別海町)』ルート

- 1.別海町内(バスターミナル)  
▼ 0.6km 1分
- 2.加賀家文書館  
▼ 0.0km 0分
- 3.別海町郷土資料館  
▼ 50.7km 61分  
(ネイチャーセンターまで)
- 4.野付半島 7  
▼ 60.0km 72分
- 5.旧奥行白駅通所など<sup>15 17</sup>  
▼ 14.0km 17分
- 6.新酪農村展望台 4  
▼ 8.0km 10分
- 7.別海町内(バスターミナル)

## 別海 別海

北海道は歴史が浅い、と思われがちですが、ここ別海町には、北海道遺産にもなっている打瀬舟や北海道独自の制度「駅通」、寛政12年(1800年)から幕末まで将軍家に献上した西別鮭、パイロットファームによる開墾、野付半島の通行屋・番屋跡など多くの文化・歴史・遺跡があります。きっと「別海町って深い。」と思えるようになるでしょう。

## 7千情報 野付半島の今昔

日本最大の砂嘴(さし)として有名な野付半島。トドワラやナラワラ、原生花園など風光明媚なところです。2005年にはラムサール条約湿地にも登録され、その大自然は世界的に認められている野付半島ですが、この半島にも言い伝え(伝説)があります。

伝説1「野付岬の龍神」龍神岬にまつわる男女の悲しい物語  
伝説2「幻の街キラク」野付半島にあったと言われる幻の歌楽街

半島には、竪穴住居跡が集まるオンクル遺跡や江戸時代に国後島へ渡る際の中継点として置かれた通行屋の跡などの遺跡も多く、このような土地だからこそ、これらの伝説が生まれたのかも知れません。( ? ) 本当のところは定かではありません。) 古いにしえへの想いを馳せて、野付半島をドライブしてみるのも、いいんでないかい!



## 新酪農村展望台

新酪農村は、昭和48年から国家プロジェクトとして935億円余りの巨費を投じて整備された大規模酪農村なのだ。昭和58年に94戸の入植を完了し、1戸当り50haの草地と60～70頭の乳牛を有するヨーロッパ諸国並の近代酪農団地として脚光を浴びている。展望塔に昇ると、まさに北海道の広さを実感できるのでぜひ訪れてみたい。



(新酪農村展望台からの眺め)

## 別海町郷土資料館

別海の産業や開拓当時の生活をはじめ、別海のおいたちを知ることができる貴重な資料850点がジオラマ等とともに展示されています。

別海町別海宮舞町30 TEL (0153)75-0802



(郷土資料館)

## 加賀家文書館

平成10年に加賀家7代目にあたる加賀実留男氏から、江戸時代の末期に当町の野付半島などで活躍した加賀家の一族が残した古文書資料約1,000点が寄託され、その保存と教育的活用をはかるために建設されたものです。加賀家の古文書を7つのテーマにまとめ、映像コーナー・加賀家文書ライブラリー・收藏展示室などを設けています。



(加賀家文書館)

両館とも  
開館：午前9時～午後5時 入館は午後4時30分まで)  
休館：第2/4月、第1/3/5土・日曜日、祝日、年末年始  
入館料：300円(両館共通)

別海町別海宮舞町29 TEL (0153)75-2473